

令和2年度事業報告

令和2年度は、令和2年1月から世界中で大パニックになった、新型コロナウイルス感染症により、世の中は時が止まり劇場化した。4月7日に第1回目の緊急事態宣言が発出され、全世界の行事、日本も全国各地の行事がストップした。見えない敵“新型コロナ感染症”の影響で今まで経験したことのない様相になった。当然、スポーツ活動にも影響が出てきており、56年ぶりに日本で開催予定の東京オリンピックは1年後の延期となり、また先が見えない状況で月日が過ぎていった。

ようやく7月以降徐々に規制も緩くなってきたが、コロナ禍が続き活動ができるようになったのは9月以降になった。10月までの国内大会は全てが中止、それ以降もコロナ対策を十分行いながら数大会しか開催することができなかった。また、研修会、講習会等も人が集まる行事の制約も厳しくなかなか開催ができなかった。

そして、コロナ禍ではあるが本協会は各都道府県協会並びに関係諸団体・組織との連携・協力のもと、ウェイトリフティング競技の発展と普及を図るため各種事業を再開した。

また、令和2年度より始まるスポーツ庁が推進する「スポーツ団体ガバナンスコード」の遵守に向けて規定などを順次整備し、本協会が長年に亘り健全で且つ強固な組織団体としての運営を目指し、選手強化、競技人口の拡大、国際レベルの競技運営能力、国際発信力の向上並びに財政の確立を継続している。また、ガバナンスの向上に努め社会的責任を自覚し、公益社団法人として今後も使命を果たしていく。

本年7月に行われる予定であった第32回オリンピック競技大会（2020／東京）（以降東京オリンピックと称す）では男女のメダル獲得並びに入賞を目標にハイパフォーマンススポーツセンター（H P S C）との連携と味の素ナショナルトレーニングセンターの活用を進め、東京オリンピック強化戦略プランの達成に務めている。そして、このコロナ禍でも目標達成のために選手及びスタッフ等が万全の態勢で臨めるよう最終調整を行い、東京オリンピック大会に向けて2016年10月より実施している“1000日合宿・トレーニング計画強化プラン”的集大成とする。

また、令和2年度は恒久的にオリンピック競技大会で活躍できる選手を育成するための合宿等の事業ができなかったが、ナショナルトレーニングシステム（競技者育成プログラム）を継続し、2024年パリ・2028年ロサンゼルスオリンピック大会対策として若手の合同合宿も行っていく。

本年は56年ぶりに日本で開催される、東京オリンピック大会（東京国際フォーラム会場）が最大の行事になるが、昨年までのテストイベントをはじめ、過去の国際大会を開催した経験を活かし、大会で競技の普及振興をはじめ競技力・運営能力・国際発信力・競技の振興を發揮する。

【公益事業】

I. 競技力向上事業

1. 選手強化事業

競技者が人間の可能性の極限を追求し、国内外の競技会等で活躍することは、国民に誇りや、夢と感動をもたらすと同時に競技の普及・振興に寄与するものである。このコロナ禍で令和2年4月に始まった緊急事態宣言や核施設の利用制約を厳守して事業を行った。新型コロナウイル感染防止のためこの1年は予定した人数が行事に参加できなかった。昨年度は下記の選手強化及び指導者育成事業に取り組んだ。また、スポーツ医科学の面からの支援もあり、国立スポーツ科学センター・ハイパフォーマンスセンターの各種サポートも活用し、少ない事業ながら効果的に実施した。

記

(1) 国内合宿

公益財団法人日本オリンピック委員会の補助事業として、強化拠点である「味の素ナショナルトレーニングセンター専用練習場」を中心に、継続して国際競技力の向上を目標に実施した。

また、2020年東京オリンピック大会が1年延期となったが強化目標も継続した。一方、2024年パリ・2028年ロサンゼルスオリンピック対策としての次世代選手育成の強化事業はコロナ禍のため実施できなかった。

【月次強化合宿】

No	合宿名 (月次強化合宿)	期間	指導者数	選手数	場所
1	国内合宿	4月)	4/1~ 4/30	3名	4名 東京都 NTC

2	国内合宿	(月次強化合宿	4月)	5/1~ 5/31	2名	2名	東京都	NTC中止
3	国内合宿	(月次強化合宿	6月)	6/1~ 6/30	2名	3名	東京都	NTC
4	国内合宿	(月次強化合宿	7月)	7/1~ 7/31	2名	2名	東京都	NTC
5	国内合宿	(月次強化合宿	8月)	8/1~ 8/31	2名	1名	東京都	NTC
6	国内合宿	(月次強化合宿	9月)	9/1~ 9/30	2名	1名	東京都	NTC
7	国内合宿	(月次強化合宿	10月)	10/1~10/31	2名	1名	東京都	NTC
8	国内合宿	(月次強化合宿	11月)	11/1~11/30	2名	1名	東京都	NTC
9	国内合宿	(月次強化合宿	12月)	12/1~12/31	2名	1名	東京都	NTC
10	国内合宿	(月次強化合宿	1月)	1/1~ 1/31	2名	1名	東京都	NTC
11	国内合宿	(月次強化合宿	2月)	2/1~ 2/28	3名	9名	東京都	NTC
12	国内合宿	(月次強化合宿	3月)	3/1~ 3/31	2名	2名	東京都	NTC

【ナショナル合宿】 ※年間21事業計画であったが、9事業を実施。

No	合宿名	期間	指導者数	選手数	場所
1	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	9/13~ 9/26	1名	3名	北海道士別市
2	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	9/14~ 9/23	4名	4名	新潟県津南町
3	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	10/ 5~10/24	4名	6名	東京都 NTC
4	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	10/14~10/24	3名	6名	北海道士別市
5	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	11/ 5~11/14	5名	5名	東京都 NTC
6	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	11/16~11/25	2名	5名	東京都 NTC
7	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	12/18~12/26	5名	5名	東京都 NTC
8	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	3/ 8~ 3/13	4名	6名	東京都 NTC
9	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	3/15~ 3/24	5名	9名	東京都 NTC

【次世代育成合宿】※年間10事業計画したが、コロナ禍ですべて実施できなかった。

No	合宿名	期間	指導者数	選手数	場所
1	国内合宿 (ジュニア選抜合宿)	5/ 2~ 5/ 6	6名	14名	東京都 NTC
2	国内合宿 (中学生合宿)	7/ 4~ 7/ 5	6名	14名	東京都 NTC
3	国内合宿 (日韓中Jr事前合宿)	8/22~ 8/24	6名	16名	秋田県
4	国内合宿 (中学生合宿)	10/11~10/12	7名	10名	東京都 NTC
5	国内合宿 (世界大学事前合宿)	10/14~10/19	6名	16名	東京都 NTC
6	国内合宿 (世界ユース事前合宿)	11/ 5~11/10	6名	16名	東京都 NTC
7	国内合宿 (世界ジュニア候補合宿)	1/ 5~ 1/11	8名	16名	東京都 NTC
8	国内合宿 (中学生合宿)	2/ 6~ 2/ 7	5名	16名	東京都 NTC
9	国内合宿 (次世代育成合宿 女子)	2/ 8~ 2/21	6名	10名	愛媛県新居浜市
10	国内合宿 (次世代育成合宿 男子)	2/ 8~ 2/21	4名	10名	沖縄県国頭村

(2) 海外合宿

海外の強豪国との練習実施を計画したが、コロナ禍のため下記3事業は中止とした。

記

- ① 公益財団法人日本オリンピック委員会の補助事業として、国際力（国際人の養成）及び国際競技力の向上を目指とした。

合宿名 : 大学生海外研修合宿（米国）

期間 : 令和3年2月13日～2月28日

場所 : アメリカ合衆国ルイジアナ州立大学シュリーブポート校

実施 : コロナ禍のため中止

- ② 公益財団法人日本オリンピック委員会の補助事業として、世界強国の情報収集及び2024年オリンピックに向けての強化を計画した。

合宿名 : 男子ナショナル海外合宿（中国）

期間 : 令和3年2月8日～2月21日

場所 : 中華人民共和国 福建省訓練センター

実施 : コロナ禍のため中止

- ③ 公益財団法人日本オリンピック委員会の補助事業として、ジュニア層で世界でも活躍している強国で競技力の向上を目指した。

合宿名 : 次世代育成海外研修合宿（ベトナム）
期 間 : 令和3年3月8日～3月21日
場 所 : ベトナム国ハノイ市
実 施 : コロナ禍のため中止

（3）外国チームとの合同合宿

- ① 公益財団法人日本オリンピック委員会及び韓国オリンピック委員会との共催事業であり、次代を担う若手選手の育成と国際交流の促進を目的に、公益財団法人日本オリンピック委員会の補助事業として計画したが、下記2事業はコロナ禍のため中止とした。

記

〔派遣事業〕（中止）

合宿名 : 日韓競技力向上スポーツ交流事業
期 間 : 令和2年10月26日～10月31日
場 所 : 大韓民国 コヤン市

〔受入事業〕（中止）

合宿名 : 日韓競技力向上スポーツ交流事業
期 間 : 令和2年12月7日～12月12日
場 所 : 日本 沖縄県国頭村 「くいなエコ・スポレク公園トレーニング場」

（4）国際競技会への派遣

国際競技力の評価は、国際競技会での成績が中心となる。本会は、恒久的オリンピック選手育成の観点（一定レベルの競技力を有する）から年代別の競技会に優秀選手を派遣し競技力の向上を目指す予定であったが、コロナ禍のため下記6事業は延期または中止とした。

記

- ① アジア選手権大会「N F強化事業」（1年延期）

開催期間 : 令和2年4月17日～4月26日
場 所 : ウズベキスタン共和国 タシケント市

- ② 2020東京オリンピック競技大会「JOC派遣事業」（1年延期）

開催期間 : 令和2年 7月23日～ 8月 5日
場 所 : 日本 東京都「東京国際フォーラム」

- ③ 日・韓・中フレンドシップ大会「N F強化事業」（延期後中止）

開催期間 : 令和2年 9月 6日～ 9月11日
場 所 : 中華人民共和国

- ④ 世界大学選手権大会「次世代アスリート育成事業」（中止）

開催期間 : 令和2年10月20日～10月25日
場 所 : 大韓民国 唐津郡

- ⑤ 世界ユース選手権大会「次世代アスリート育成事業」（中止）

開催期間 : 令和2年11月 5日～11月10日
場 所 : ペルー共和国 リマ市

- ⑥ 日・韓・中ジュニア交流競技会「日本スポーツ協会主催」（中止）

開催期間 : 令和2年 8月24日～ 8月28日
場 所 : 秋田県 三種町琴丘総合体育館

（5）国際大会開催

56年ぶりの東京オリンピックが7月に開催予定であったが、コロナ禍のため1年延期となつた。

また、日本、韓国、中国3ヶ国のジュニア層の交流を深め、秋田県で日本スポーツ協会事業として高校生の大会が計画されたが、コロナ禍のため事業は中止となつた。

記

- ① 2020東京オリンピック競技大会（1年後へ延期）

開催期間 : 令和2年 7月23日～ 8月 5日
場 所 : 日本 東京都「東京国際フォーラム」

- ② 日・韓・中ジュニア交流競技会（中止）

開催期間：令和2年 8月24日～ 8月28日
場所：秋田県 三種町琴丘総合体育館

(6) 海外優秀コーチ招聘事業

2024パリ・2028ロサンゼルスオリンピック大会に向けて、海外の優秀コーチ招聘により、技術及び戦術を学び、日本の競技力向上及び国際大会での成績上昇を狙う目的で計画したが、コロナ禍で実施できなかった。

(7) スポーツ医・科学研究事業との連携に基づく強化

- ① 日本スポーツ振興センター（JSC）・国立スポーツ科学センター（JISS）・日本オリンピック委員会（JOC）から次のハイパフォーマンス事業を受けた。
 - ア) 栄養、トレーニング、情報、科学の各分野が連携した医・科学支援を継続した。
 - イ) ウエイトリフティングの技術について、NTCでの合宿及び通常練習、全日本選手権大会時のビデオカメラ撮影を依頼し、動作解析して、選手・指導者へのフィードバックを行った。
- ② ミズノスポーツ振興財団の助成により、本協会スポーツ医科学委員会では、令和2年度の「スポーツに関する科学的・学術的・医学的研究」として、国内競技会医事運営と外傷・障害調査、さらには外傷・障害予防のためのトレーニングプログラム指導を予定していたが、コロナ禍の影響を受け対象大会の中止が多く、最終的に競技大会を対象として救護活動と外傷・障害調査を実施した。
- ③ コロナ禍で大会が少なかったものの12月全日本選手権大会、2月全日本ジュニア選手権大会、学生連盟の大会、全国高体連関連大会において、コロナ対策を十分実施し医科学委員会の医師及びトレーナーが医事運営にあたり、安全管理・危機管理の向上に努めた。

(8) ナショナルコーチの推薦

公益財団法人日本オリンピック委員会のナショナルコーチ事業制度を活用し、ナショナルコーチ及びアシスタントナショナルコーチ制度を利用した。

- ・ナショナルコーチ 小宮山哲雄 氏
- ・アシスタントナショナルコーチ 細川 翔平 氏

(9) コーチの推薦

味の素ナショナルトレーニングセンター専用施設の有効活用と選手強化のコーチングの任に当たるために、公益財団法人日本オリンピック委員会の専任コーチ等設置事業制度を活用し、ナショナルチーム指導者のトップコーチ・NTC担当・ジュニアコーチングデレクターの制度を利用した。

- ・トップコーチ 小畠直之 氏
- ・NTC専任コーチ 柴田里穂
- ・ジュニア専任コーチ 高倉玄喜 氏

2. コーチの資質向上を目的とする事業

(1) 競技者育成プログラム研修会

初心者からトップレベルの競技者に育成するためには、発達段階に応じた年代別育成プログラム（一貫指導システム）に基づき指導を継続することが重要である。年末に実施するジュニアエリート研修合宿及びジュニアユース研修合宿の指導を統一するために中心となる指導者を対象に事前に下記研修会を実施する予定であったが、コロナ禍で合宿自体が中止となつたため行えなかった。

記

予定日 令和3年1月30日・31日
会場 味の素ナショナルトレーニングセンター
内容 競技者育成プログラム研修

(2) 全国指導者研修会

ウエイトリフティング指導者の資質と指導力の向上及び指導者間の情報交換並びに連携を図ることを目的に下記事業を開催する予定であったが、コロナ禍で中止とした。

記

予定日 令和3年2月13日・14日
会 場 味の素ナショナルトレーニングセンター
内 容
・令和2年度事業総括
・東京オリンピックに向けての強化
・令和3年度事業計画

- (3) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者専門教科講習会講師の派遣
コロナ禍のため下記2事業は実施できなかった。

記

- ① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者「コーチ1（指導員）」養成（専門教科）講習会
期 日 令和2年9月19日～9月22日
時 間 30時間
会 場 味の素ナショナルトレーニングセンター
- ② 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者競技別講師全国研修会
期 日 令和3年2月22日・23日の2日間
時 間 14時間
会 場 味の素ナショナルトレーニングセンター

- (4) JWA×NSCAジャパン ウエイトリフティング実技検定事業について
標記事業は、当初令和2年4月より実施予定であったが、コロナ禍で講習会形式が組めなかつたため令和3年度中の実施を目指す。また、NSCA（ナショナル・ストレスレンジ&コンディショニング協会）と技能検定内容も今後より充実を図っていく。

II. 競技者育成事業

1. 研修合宿開催

日本スポーツ振興センター助成事業である、一貫指導システム（ナショナルトレーニングシステム）の理念と方法に基づき、競技者の発掘及び育成を図ることを目的とし、下記の内容であったがコロナ禍で中止とした。

記

- (1) 中学生・高1研修合宿（ディベロップメント）
都道府県協会に中学生及び高校1年生の優秀競技者の情報提供を依頼し、選手強化委員会の専門グループがセレクションした選手を対象とした研修合宿。
- (2) 大学生研修合宿（ジュニアスペリオリティー）
各種競技会の成績を基に、ジュニア年代の学生をセレクションしての研修合宿。
- (3) ジュニアエリート研修合宿
各種競技会の成績を基に、優秀な高校2・3年生をセレクションしての研修合宿。
- (4) ジュニアユース研修合宿
都道府県協会よりの優秀競技者の情報及び各種競技会の成績を基に、優秀な中学生及び高校1年生を対象に全国を6地区に区分しての研修合宿。

2. 2028年・2032年対策競技者発掘・育成事業支援

2028年ロサンゼルス・2032年オリンピック対策として、都道府県で競技者のタレント発掘・育成事業開催について募集をしたが、応募の都道府県協会はなかった。

3. 公益財団法人日本スポーツ協会主催「ジャパンライジングスター」プロジェクトタレント発掘事業へ参加

平成29年度より、日本スポーツ協会主催の全国から中学生・高校生の異種目競技からの転向タレント発掘事業が実施され、令和元・2年度の3期生は2028年ロサンゼルス、2032年オリンピックの候補選手となるよう目標を設定した。

第1期生から協力県である山梨県山梨市民総合体育館練習場で令和元年度2回、令和2年度4回計6回の合宿を開催し、下記の9名が終了し、ほとんどの選手が今後も競技を継続している。なお、令和3年度4期生も継続して実施する。

記

①第3期生終了者

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ・内藤仁雄 (東京都 中学3年生) | ・中込志弥 (山梨県 中学3年生) |
| ・小池いろは (山梨県 中学2年生) | ・長谷中咲里 (岐阜県 中学3年生) |
| ・田中陽光 (愛媛県 中学3年生) | ・脇長 葵 (愛媛県 中学2年生) |
| ・斎藤朱音 (愛媛県 中学2年生) | ・松原 尊 (福岡県 中学2年生) |
| ・伊藤羽舷 (福岡県 中学3年生) | |

②研修合宿実施

第1回合宿	令和元年12月26日～28日	山梨県山梨市民総合体育館
第2回合宿	令和2年 2月22日～24日	〃
第3回合宿	令和2年 9月20日～22日	〃
第4回合宿	令和2年11月21日～23日	〃
第5回合宿	令和2年12月26日～28日	〃
第6回合宿	令和3年 1月 9日～11日	〃

III. 振興・教育事業

会員の状況及び役員・選手の登録を把握し、競技者規程・競技規則の周知、記録の公認、審判員の養成、国際交流、アンチ・ドーピング活動及びコンプライアンスの徹底等は、競技の透明性や公平・公正性を向上させることに繋がり、安全かつ公正な環境下でスポーツに参画できる機会を充実させるための基礎条件である。スポーツを通じて、他者を尊重しこれを共同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度等を培っていくためにも重要であることから次の事業を行った。

(1) スポーツ外交の推進

2017年に世界の役員獲得ができたが、IWFの組織改革のため、2020年10月アジア役員選挙、2021年3月国際連盟役員選挙は改選時期が延期された。

(2) 生涯スポーツの振興

徳島県で開催される2021関西ワールドマスターズ大会は1年延期（令和4年5月23日より）された。マスターズ層も長寿国日本を目指し健康保持増進のため、力強く、楽しく競技を行っている選手がいる。目標を持ち人生においてもウェイトリフティング競技を生涯スポーツとして捉え、各自のトレーニングに励んだ。令和2年度はマスターズ関係の大会も開催されなかつたが、令和3年10月には全日本マスターズ選手権大会を徳島県鳴門市で開催する。

下記、世界マスターズ選手権開催についてはコロナ禍で開催がなかった。

記

大会予定：令和2年8月28日～9月5日

場 所：アメリカ合衆国 フロリダ州 オーランド市

(3) 情報の収集と情報誌の発刊

① IWF及びAWFの会議及び大会に代表者を派遣し、情報収集と併せてIWF・AWFとの連携を図るため役員の派遣計画であったが下記大会開催は中止となった。

記

・アジア選手権大会 (AWF関係会議) 中止

期日：令和2年 4月16日～4月25日

場所：ウズベキスタン共和国 タシケント市

・世界大学選手権大会 (IWF関係会議) 中止

期日：令和2年 10月20日～10月24日

場所：大韓民国 康津郡

・世界ユース選手権大会 (IWF関係会議) 中止

期日：令和2年 11月11日～11月18日

場所：ペルー共和国 リマ市

② スポーツ振興くじの助成を受けて、令和元年度年鑑、会報は年3回を発刊する予定であったが会報は135号のみとなつた。主な内容は次のとおり。

年鑑：令和元年度の協会主催競技会及び主要国際大会の成績

協会組織図、協会役員名簿、都道府県協会役員名簿、令和元年度事業、

公認最高記録及び記録樹立表、ランキング表等

会報：令和2年度事業計画、各種事業報告、大会講評、ブロック大会以上の競技会

(4) 用器具等の検定及び公認

記録競技（重量）であることから、バーベルはじめ使用器具が適確でなければならない。本協会器具公認認定規則に基づき、高品質で絶対の安全性と機能性のあることを確認したなかで申請のあった器具に対して認定手続きを行った。

(5) 顕彰

本協会表彰規程に基づき、功労賞、優秀選手賞、優秀指導者賞の表彰を、また、スポンサー等の協力団体への感謝状贈呈に関する基準により顕彰を下記により行った。

なお、表彰式はコロナ禍のため中止とした。

記

[功労賞 14名]

①佐藤 力男 (72歳) 岩手県協会	前会長	第3条2(1) (平成11年～20年間会長)
②合田 博 (64歳) 北海道協会	現 副会長	第3条2(2) (平成 2年～37年間)
③久保田 寛 (70歳) 青森県協会	現 副会長	第3条2(2) (昭和58年～36年間)
④大沢 春彦 (68歳) 青森県協会	現 常任理事	第3条2(2) (平成 6年～25年間)
⑤竹内 悅郎 (72歳) 群馬県協会	現 理事	第3条2(2) (平成 3年～28年間)
⑥本田 英昭 (78歳) 神奈川県協会	現 理事	第3条2(2) (昭和57年～39年間)
⑦岡野 忠雄 (72歳) 神奈川県協会	現 理事	第3条2(2) (平成 6年～27年間)
⑧浅田 浩伸 (50歳) 石川県協会	現 常任理事	第3条2(2) (平成 8年～23年間)
⑨宮下 覚 (64歳) 滋賀県協会	現 副会長	第3条2(2) (昭和53年～41年間)
⑩横井 経信 (60歳) 大阪 協会	現 副理事長	第3条2(2) (平成11年～22年間)
⑪末廣 誠 (57歳) 大阪 協会	現 理事	第3条2(2) (平成12年～21年間)
⑫河野 長男 (62歳) 徳島県協会	現 理事	第3条2(2) (平成 元年～31年間)
⑬新垣 盛幸 (58歳) 沖縄県協会	現 理事	第3条2(2) (平成 7年～26年間)
⑭平仲 健 (58歳) 沖縄県協会	現 理事	第3条2(2) (平成 7年～26年間)

[優秀選手賞 6名]

第3条 第3項 (4) 該当者

①男子 73kg級 宮本昌典 (東京国際大学・職)	S 155kg	T 345kg
②男子 102kg級 山本俊樹 (ALSOK)	C&J 215kg	T 376kg
③男子 109kg級 持田龍之輔 (ALSOK)	S 179kg	C&J 222kg T 401kg
④女子 49kg級 高橋いぶき (金沢学院大学大学院)		C&J 108kg
⑤女子 64kg級 安藤美希子 (FAコンサルティング株式会社)		C&J 123kg
⑥女子 71kg級 石井未来 (いちご株式会社)		C&J 123kg T 218kg 221kg

[優秀指導者賞 4名] : 優秀選手を指導した指導者

①三宅義行 : いちご株式会社	…	石井未来選手 の指導者
②三石悦雄 : 千葉県協会	…	安藤美希子選手 の指導者
③菊田三代治 : 金沢学院大学 (職)	…	高橋いぶき選手 の指導者
④三宅敏博 : 東京国際大学 (職)	…	宮本昌典選手 の指導者

[感謝状贈呈]

スポンサー関係 : いちご株式会社、カネカ株式会社、JTB、JAL、マイナビ、ミズノ、パロマ、プライムケア、ALSOK

多額寄付者（免税募金等） : ウエサカティーイー、ミズノスポーツ振興財団

物品提供社 : 伊藤超短波、大塚製薬、クリアーウォーター津南、スジャータめいらく、ホットアルバム炭酸泉タブレット

(6) アンチ・ドーピング活動

昨今のスポーツ界ではドーピング違反行為によりスポーツの価値を損ない、フェアプレイの精神が欠如しかかっている。競技者の健康を害する、反社会的行為であるドーピングに対する啓発と検査実施により撲滅に努めた。

- ① 啓発・教育活動
 - ・JADAが作成したドーピング防止ガイドブック(PLAY TRUE BOOK, FARI PRIDE ガイド)を指導者・選手に配付し情報を提供した。文書にて各都道府県協会に各種情報を伝達した。
 - ・各種競技会前の監督会議にて最新情報を伝達し、啓発・教育活動を行った。
- ② 講習会・研修会の開催
 - スポーツ振興くじの助成及びJADAの助成を受けて、次の事業を実施した。
 - ・オリンピック候補選手対象講習会
 - 8月29日 オンライン(Zoom)にて実施
 - ・パリオリンピック候補選手対象講習会
 - 10月17日 オンライン(Zoom)にて実施
 - ・全日本ジュニア選手権大会参加監督対象講習会(監督会議)
 - 2月2, 3日 オンライン(Zoom)にて実施
- ③ ドーピング検査
 - スポーツ振興くじの助成及びJADAの助成を受けて、競技会検査を実施した。(全日本選手権大会を含む。尿検査・血液検査を実施した。)
- ④ TUE申請大会の指定によるその実践
 - 世界選手権大会等の国際大会出場者には、TUEの申請が不可欠である。国内競技会においては徹底されていない状況であることから、次の1大会(もう1つ予定の国民体育大会は中止)を指定し申請の徹底を図りアンチ・ドーピングの意識高揚を促した。
 - ・全日本選手権大会
- ⑤ ADAMSへの居場所情報報告の徹底
 - ・JOC認定の強化指定選手及びIWFからの指定選手並びに国際大会参加選手は、居場所情報をADAMSにて提出する義務がある。報告をしないこと及び居場所情報に基づく競技会外検査で所定の場所にいない場合は居場所情報違反としてペナルティーの対象となることから報告の徹底を指導した。
 - ・ADAMSによる居場所情報の更新の確認・督促、他の選手の情報等を共有、RTPの選手は個別にJADA主催の講習会を受講し居場所情報義務違反をなくすよう指導した。
 - ・報告の確認・督促、他の選手の情報の提供等をメールし未提出をなくす。

(7) 審判員の資質向上

- ① 審判講習会の開催
 - 審判員の資質の向上を目的に下記の講習会を開催した。本年はコロナ禍であったため、オンライン形式で行った。
 - 記
 - ・対象者： 国内1級審判資格、国際審判資格所持者(義務研修)及び令和2年度国内1級審判を受験希望する審判員を対象とした。
 - ・形 式： Zoomによるオンライン講習会実施
 - ・講習会： 1回目
 - 期日： 令和2年10月17日(土)
 - 参加者： 20名
 - 講師： 島田隆宏副委員長、豊田廣和委員、磯村賢一委員
 - 2回目
 - 期日： 令和2年10月24日(土)
 - 参加者： 21名
 - 講師： 島田隆宏副委員長、豊田廣和委員、磯村賢一委員

- ② 下記の国際大会へ審判員等を派遣し、資質の向上を図ると同時に国際基準での競技運営能力の向上に努める予定であったが、コロナ禍で大会が中止となり派遣できなかった。

- 記
- ・アジア選手権大会(2021年へ延期)
 - 派遣期間： 令和2年4月16日～25日
 - 場 所： ウズベキスタン共和国 タシケント市
 - 派遣人数： 1名
- ・日韓中フレンドシップ大会(中止)

- 大会期間 : 令和2年 9月 7日～9月11日
 場所 : 中華人民共和国
 参加人数 : 2名
- 世界大学選手権大会 (中止)

派遣期間 : 令和2年10月20日～10月24日
 場所 : 大韓民国 康津市
 派遣人数 : 2名
 - 世界ユース選手権大会 (中止)

派遣期間 : 令和2年11月11日～11月18日
 場所 : ペルー共和国 リマ市
 派遣人数 : 2名

(8) 審判員の審査と認定

申請に基づき公認審判員の審査を行い、適確に認定を行った。

(9) 競技規則集の販売

令和2年度は希望がなかった。

(10) インテグリティ教育（ハラスメント行為撲滅活動及び選手・指導者の資質向上）の充実

- 指導者及び選手に対して、人として反社会的行為、倫理観等についての教育
- 暴力、パワハラ、セクハラ等の相談窓口の設置

些細なことでも相談できるシステムとして、本協会のホームページ（トップページ）に「STOP ハラスメント・暴力」相談窓口を開設しており、メール送信できるようになっている。
- 暴力、パワハラ、セクハラ、倫理に係わる研修

本協会独自で下記により全国都道府県事務局及び強化責任者に伝達講習会を実施した。

記

開催日 : 1回目令和2年11月21日（土）

2回目 " 28日（土）

講習会形式 : Zoomによるオンライン研修

対象者 : 各都道府県事務局または強化責任者

研修内容 : インテグリティ教育

　　タイトル「脱、指導におけるハラスメント行為」

研修後 : 各都道府県はこの内容を伝達講習として、各地域で研修会を実施する。

- 令和2年度の下記の事業で講習の場を設定したがコロナ禍で実施できなかった。

記

• 全国指導者研修会

• 全国高等学校体育連盟ウエイトリフティング専門部全国委員会

• 全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技会監督会議

• 全日本学生ウエイトリフティング連盟総会

• 全国理事長会議

- 日本オリンピック委員会事業のインテグリティ教育を選手及び指導者も受講し、より質の高い選手育成及び指導者養成を図った。

(11) ホームページの充実整備

法人として公開しなければならない情報はもとより、役員・選手のニーズに合わせた内容及び一般のユーザーの要望にも応えられるよう対応している。令和3年3月より本協会のホームページをリニューアルし、より見やすくし、最新情報も多く取り入れた。

(12) 記録の公認

- ① 令和元年1月1日より日本は階級変更し、スタンダード記録が設定された。競技・競技会規則Ⅷに基づき、日本記録を認定し公表した。公認の区分は男女同一で、日本記録、ジュニア日本記録、大学記録、高校記録、中学記録、マスターズ記録とし、コロナ禍で大会

が少なかったが下記に記録の樹立があった。

記

[新記録の合計]

期 間 : 2020. 01. 01 ~ 2020. 12. 31

男子	日本	Jr 日本	大学	高校	中学	マスターズ	合計
	7		1	1	1		10
女子	日本	Jr 日本	大学	高校	中学	マスターズ	合計
	5	11		16	8		40

IV. 大会開催事業

1. 国内大会開催事業

競技力の向上、競技の普及・振興、生涯スポーツの振興発展ため、下記の大会を計画したが、コロナ禍で中止・延期が多かった。

- ① 大会名：第66回全日本学生個人選手権大会・第32回全日本女子学生選手権大会（会期変更）
期 日：令和2年5月8日～10日 ⇒ 11月6日～11月8日
会 場：大阪府羽曳野市 羽曳野コロセアム
内 容：参加者 男子68名、女子50名
新記録 大学新1 Jr日本新2
- ② 大会名：第80回全日本選手権大会・第34回全日本女子選手権大会（会期・開催場所変更）
期 日：令和2年6月4日～7日 ⇒ 12月10日～12月12日
会 場：東京都 駒沢室内球技場 ⇒ 新潟県 ニューグリーンピア津南体育館
内 容：参加者男子48名、女子37名
新記録 日本新12、Jr日本新3、高校新6
- ③ 大会名：第22回全国高等学校女子選手権大会（中止）
期 日：令和2年7月17日～19日
会 場：愛知県一宮市 いちのみや中央プラザ体育館
- ④ 大会名：第67回全国高等学校選手権大会（中止）
期 日：令和2年8月11日～8月14日
会 場：茨城県高萩市 高萩総合体育館
- ⑤ 大会名：第34回全国男子中学生選手権大会・第19回全国女子中学生選手権大会（中止）
期 日：令和2年8月22日・23日
会 場：京都府京都市 G S 体育館
- ⑥ 大会名：第75回国民体育大会（令和5年に延期）
期 日：令和2年10月4日～10月8日
会 場：鹿児島県薩摩川内市 入来総合体育館
- ⑦ 大会名：第38回全日本マスターズ選手権大会（中止）
期 日：令和2年10月22日～10月25日
会 場：徳島県鳴門市 アミノバリューホール
- ⑧ 大会名：文部科学大臣杯第66回全日本大学対抗選手権大会2部（会期・開催場所変更）
期 日：令和2年11月6日～11月8日 ⇒ 令和3年3月4日～3月5日
会 場：大阪府羽曳野市 はびきのコロセアム ⇒ 埼玉県スポーツ総合センター体育館
参加者：男子94名

[団体成績]

優勝	金沢学院大学	196点	2位	名古屋産業大学	161点	2位	仙台大学	161点
4位	京都産業大学	109点	5位	慶應義塾大学	92点	6位	近畿大学	78点

7位 立命館大学 53点 8位 防衛大学校 46点
※金沢学院大学・名古屋産業大学は1部に昇格（同点の場合は、上位入賞者数による）

⑨ 大会名：文部科学大臣杯第66回全日本大学対抗選手権大会1部（会期変更）
期 日：令和2年11月13日～11月15日⇒令和3年3月5日～3月6日
会 場：埼玉県上尾市 埼玉県スポーツ総合センターホール
内 容：参加者 男子95名
新記録 大学新 3

[団体成績]

優勝	日本大学	183点	2位	九州国際大学	150点	3位	早稲田大学	143点
4位	東京国際大学	135点	5位	中央大学	129点	6位	法政大学	119点
7位	明治大学	105点	8位	平成国際大学	55点	9位	日本体育大学	52点
10位	大阪商業大学	0点	(日本体育大学・大阪商業大学は2部に降格)					

⑩ 大会名：内閣総理大臣杯第56回全日本社会人選手権大会（中止）
レディースカップ第11回全日本女子選抜選手権大会
期 日：令和2年11月22日～11月26日
会 場：三重県亀山市 西野公園体育館

⑪ 大会名：文部科学大臣杯第66回全日本大学対抗選手権大会（女子）
期 日：令和2年12月4日～12月6日
会 場：福岡県北九州市 浅生スポーツセンター
内 容：参加者 女子75名
新記録 Jr日本新4

[団体成績]

優勝	東京国際大学	109点	2位	早稲田大学	107点	3位	金沢学院大学	98点
4位	九州国際大学	97点	5位	日本体育大学	59点	6位	平成国際大学	42点

⑫ 大会名：JOCジュニアオリンピックカップ第41回全日本ジュニア選手権大会
期 日：令和3年2月5日～2月7日
会 場：山梨県山梨市 山梨市総合体育館
内 容：参加者 ジュニアの部 男子36名、女子39名
中学生の部〃 5名、〃 7名
新記録 Jr日本新4 高校新7 中学新8
最優秀選手 男子67kg級 山下立真（石川県 飯田高校3年）
女子55kg級 吉田いぶき（香川県 早稲田大学1年）

⑬ 大会名：第65回全日本学生新人選手権大会（中止）
期 日：令和3年3月4日・5日
会 場：埼玉県上尾市 埼玉県スポーツ総合センターホール

⑭ 大会名：第17回全日本学生選抜大会（中止）
期 日：令和3年3月6日・7日
会 場：埼玉県上尾市 スポーツ総合センターホール

⑮ 大会名：第36回全国高等学校選抜大会
期 日：令和3年3月26日～3月28日
会 場：石川県金沢市 金沢市総合体育館
内 容：参加者 男子101名 女子80名
新記録 Jr日本新1 高校新4
最優秀選手 男子 89kg級 西川勝之（京都府 朱雀高校2年）
女子 55kg級 佐藤友咲（神奈川県 日大藤沢高校2年）

本会の目的達成及び業務を達成するため、次の会議を開催した。

(1) 社員総会の開催

① 令和2年度 定時社員総会

期 日 令和2年6月28日（日）
場 所 品川プリンスホテル 3F ハイビスカス・あじさい
議 題 1号議案 令和元度事業報告及び決算報告について
2号議案 令和2年度第1次補正予算について

② 令和2年度 臨時社員総会

期 日 令和3年3月13日（土）
場 所 品川プリンスホテル 3F りんどう・シャクナゲ
議 題 1号議案 令和3年度事業計画案について
2号議案 令和3年度予算案について

(2) 理事会の開催

① 第1回理事会

期 日 令和2年 6月13日（土）
場 所 JAPAN SPORT OLIMPIC SQUARE 3階 会議室2
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
議 題 「報告事項」
1. 各種大会報告
2. 今後の大会開催
3. 新型コロナウイルス感染症関連
4. JSCトップアスリート及びユースアスリート推薦
5. 令和2年度第75回鹿児島国体予選会免除者
6. 2022年ユースオリンピック開催
7. IWF関係
8. その他
「審議事項」
1. 令和元年度事業報告・決算報告について
2. 令和2年度1次補正予算について
3. 「スポーツ団体ガバナンスコード」の取り組みと規程の承認について
4. 2020年東京オリンピック新参加枠獲得システムについて
5. 国際審判員の推薦について
6. 国内審判員の認定について
7. 賛助会員の承認について

② 第2回理事会

期 日 令和2年 9月12日（土）
会議形式 Zoomによるオンライン会議（味の素ナショナルトレーニングセンター）
議 事 「報告事項」
1. 各種大会報告
2. 今後の大会開催
3. IWF、AWF関係
4. 日本スポーツ協会関係
5. 各委員会より
6. 東京オリンピック関連
7. 事務局より
8. 業務執行理事よりの報告
9. その他
「審議事項」
1. 「スポーツ団体ガバナンスコード」に関する規程の承認について
2. 国内審判員の認定について
3. コンプライアンス違反行為について
4. 令和2年度全日本選手権大会開催について

5. 賛助会員の承認について

③ 第3回理事会

- 期 日 令和2年12月19日（土）
場 所 「ザ・プリンスさくらタワー東京」2FコンファレンスフロアーN1～3
東京都港区高輪3-13-1
議 事 「報告事項」
1. 各種大会・事業終了
 - ① 第66回全日本学生個人選手権大会終了
 - ② 第66回全日大学対抗選手権大会（女子）終了
 - ③ 第80回全日本・第34回全日本女子選手権大会終了
 2. AWF・IWF関係国際情報について
 3. 日本スポーツ協会関係
 - ①「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」事業について
 - ②今後の国体開催順について
 - ③第76回三重国体予選会免除大会について
 4. 各委員会より
 - ①選手強化委員会
 - ②アンチ・ドーピング委員会
 - ③普及委員会
 5. 東京オリンピック開催関連
 6. その他
「審議事項」
 1. ガバナンスコードにおける規程の新規作成及び改定（改則）について
 2. 令和3・4年度の役員選任手順について
 3. 第2次補正予算について
 4. 令和2年度日本協会表彰について
 5. 令和3・4年度日本スポーツ協会理事推薦について
 6. IWF役員改選における役員及び委員会委員の推薦について
 7. 2020東京オリンピック強化担当について
 8. 國際審判員の国際連盟への推薦及び国内審判員の認定について
 9. 全国大会の審判編成と担当委員の承認について
 10. 会員のコンプライアンス違反における処分について

④ 第4回理事会

- 期 日 令和2年3月13日（土）
場 所 品川プリンスホテル 3F りんどう・しゃくなげ
議 事 「報告事項」

1. 各種大会・事業終了
 - ① 第66回全日本大学対抗選手権大会
 - ② 第41回全日本ジュニア選手権大会
2. 各事業の中止・延期について
3. 協会表彰（功労賞・優秀選手賞・優秀指導者賞）について
4. 令和2年度感謝状贈呈について
5. 選手強化委員会より
 - ① アジア選手権大会選手団について
 - ② 令和3年度国際大会選考基準について
 - ③ JOCオリンピック有望選手推薦について
 - ④ 令和3年度JOCコーチ設置事業推薦について
6. 競技委員会より
 - ・2020年新記録認定について
7. マスターズ委員会より
 - ・ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催について
8. 業務執行理事よりの報告
9. 各種事業募集について

10. その他

「審議事項」

1. 令和3年度事業計画案と予算案について
2. 特定費用準備資金の承認について
3. 公認審判員の認定と全国大会の審判編成について
4. スポーツ競技団体ガバナンスコードの自己説明の公開資料と規程の制定及び改定について
5. 日本オリンピック委員会理事推薦について
6. 役員選考委員会委員の承認について
7. 事務局職員の任用承認について

VI. 財政の確立

各種事業の推進に、独立行政法人日本スポーツ振興センター、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本スポーツ協会、外務省、スポーツ庁、公益財団法人ミズノスポーツ振興財団等に対し、助成金・委託金・補助金等の要望・申請を行い、本会の事業実施への充当財源に努める。

財政基盤確立のため、定款に基づく賛助会員の募集に努める。また、公益法人認定後は、本法人が免税募金を主体的に実施できることから、加盟団体及び関係者に広く募金を呼び掛ける。

- ・協賛企業の開拓を積極的に行い協賛契約締結の拡大に努める。
- ・国内大会開催における、大会広告スポンサー獲得に努める。

VII. 2020年東京オリンピックに向けての計画及び2024年・2028年に向けて

(1) 選手強化計画

- ① 本年7月開催の2020東京オリンピック対策特別強化プランに基づく強化の推進
 - ・令和3年4月アジア選手権大会に向けて東京オリンピック出場参加最大枠獲得を目指し、強化の継続を行った。
 - ・2020東京オリンピック大会の出場男子4名、女子4名の目標設定を継続している。
女子：開催国枠3名+1名（最大数） 男子：開催国枠3名+1名（最大数）
 - ・2020東京オリンピック大会の目標
女子：メダル獲得と全員入賞 男子：メダル獲得と全員入賞
- ② 3年後の2024年パリ、7年後の2028年ロサンゼルスオリンピックに向けて、中学生、高校生、大学生の育成強化「次世代アスリート育成」事業を計画したが、コロナ禍で実施できなかった。今後も継続する。
- ③ P D C Aサイクルの確認に基づく強化の推進
今後も目標に向かって成果を上げるも、繰り返しの反省を今後も行う。
- ④ 指導者の育成
合宿、研修会を通して、指導者の育成を計画していたがコロナ禍で開催出来なかった。

(2) 競技の普及振興対策

- ① 500人対策プロジェクト設置
 - ・登録選手数（現在：役員約1000人、選手約3500人）を500人増やし5000人とする目標であったが。コロナ禍のため増員は困難であった。
 - ・競技の露出の増大を図るため、協会のホームページのリニューアルを行った。
 - ・メディアとタイアップも本年はコロナ禍のため困難であった。
 - ・全国規模の中学生が参加できる大会（全日本ジュニア大会で中学生の部追加）を行った。
 - ・小学生の大会開催検討は今後も継続する。

○役員選手の登録

年度	区分 役員 役員兼選手	選 手					合計
		一般	大学	高校	中学	小学	
平成28年度	総数	1,288	494	549	2,107	142	43 4,623
	男子	1,190	440	462	1,737	81	27 3,937
	女子	98	54	87	370	61	16 686
平成29年度	総数	1,308	479	570	2,178	154	59 4,748
	男子	1,207	427	473	1,764	91	37 3,999
	女子	101	52	97	414	63	22 749
平成30年度	総数	1,295	506	608	2,069	150	53 4,681
	男子	1,184	457	496	1,622	87	33 3,879
	女子	111	49	112	447	63	20 802
令和元年度	総数	1,291	515	602	1,944	172	59 4,583
	男子	1,175	455	486	1,505	110	37 3,768
	女子	116	60	116	439	62	22 815
令和2年度	総数	1,255	409	582	1,790	148	32 4,216
	男子	1,142	355	462	1,370	104	19 3,452
	女子	113	54	120	420	44	13 764

○賛助会員 120名

(3) 国際発信力、国際大会運営能力の向上

① AWF 役員ポスト事業の推進

- ・令和2年実施であったアジアウェイトリフティング連盟の選挙は延期となったが、再度、理事・各委員会のポスト獲得のため、今後もロビー活動を実施する。

② コロナ禍で大会遠征が一切できなかつたが、今後も世界・アジアの各選手権大会及び国際総合大会へのテクニカルオフィシャルの派遣を実施し、国際大会運営能力の向上を目指す。

(4) 組織運営（ガバナンス、コンプライアンス、インテグリティ教育の向上）

令和元年6月にスポーツ庁が策定した「スポーツ団体ガバナンスコード」の遵守のため、規程の整備を行い、2月には自己説明や公表を行った。令和3年の適合審査の準備を進めている。

① 担当役員を決め、具体的な日程や規程の制定、改定の準備を行つた。

② 役員（事務局）学習会を開催した。

- ・期 日 令和2年12月19日（土）
- ・場 所 「ザ・プリンスさくらタワー東京」2FコンファレンスフロアーN 1～3
- ・演 題 「スポーツ団体ガバナンスコード」における協会の責任
- ・講 師 池永知樹弁護士（本協会監事）

③ コンプライアンス委員会の設置を行つた

(5) 国際大会の開催準備

令和3年5月に下記の大会を開催する予定であったが、コロナ禍で開催が1年延期された。競技力の向上、国際大会運営能力の向上及び競技の普及振興を目的とし、特に競技役員の運営力を上げるためにも令和4年度開催に備え準備を行う。

記

「令和3年5月開催のワールドマスターズ2021関西大会」の開催準備

会期：令和3年5月14日（金）～5月30日（日）

場所：徳島県鳴門市 アミノバリューホール

(6) 財政の確立

○免税募金の募集、協賛会員の拡大、スポンサー等の拡大

令和2年度は、スポンサーは1社減、契約内容変更もあった。免税募金等の協力収入はあつたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため2020東京オリンピックが1年延期になり、各企業の業績も悪化が予想されるため、次年度以降の予算組みが困難になつてくる。

また、令和3年度途中で契約が切れるスポンサーもあるため継続依頼を行う。

以上

